東北大学新聞

発行所
東北大学学友会新聞部
川内：川内サークル会館320
片平：法文グラウンド脇プレハブ
電話：217-5010(内線3319)
〒980－8691
仙台中央郵便局私書箱第68号
印刷所　東北大学生協プリントコープ

本号4頁　無料

HEAD LINE NEWS

二面　シリーズ国立大学改革①
三面　ワイヤレスプロジェクター シャープと共同開発
四面　七大戦特集
　　学友会ヨット部

http://www.angelfire.com/mt/tonpress

本年度四月 インターネットスクールの試行始まる

全学規模では全国初

単位取得も可能

本年度から本学が全学を挙げて取り組む「東北大学インターネットスクール」（ISTU）の一部試行が、四月一日から始まった。本学の十四の研究科などが参加を予定しており、全学規模でのネットスクールは全国でも初めてとなる。

ISTUはインターネットを通じて大学院教育を行うというもの。メールやブラウザを通じて講義を受けることで、単位を取得することができる。将来的には修士号や博士号の取得も可能となる見込みだ。また、一部の科目では通学生もインターネット講義で単位を取得することができるようになる。

ISTUはリアリティのある講義をテーマに、動画を中心としたコンテンツを目指している。さらに文章や静止画像、音声を組み合わせることで、より分かりやすいよう工夫を凝らす。

コンテンツは「オンデマンド型」と「リアルタイム型」に分かれる。「オンデマンド型」はインターネットから講義の内容をダウンロードすることで、いつでも何度でも受講ができる。「リアルタイム型」の講義では、テレビ電話の要領で参加者をつなぐ。小規模ゼミのように教官と学生が積極的に意見を交わすことが可能だ。

さらに大きな特徴として、コンテンツには検索機能が付加されている。このため、関連事項を参照しながら、講義の内容を理解していくことができる。質問や個別指導についても、メールの活用などで、通常の授業と同等かそれ以上に活発なコミュニケーションの実現を目指している。

ISTUを利用するには、各研究科の試験を受け、大学院生となるか、科目等履修生として認められることが必要。具体的な選抜方法としては、これまでの院試のような方法のほか、将来的にはWeb上で試験を行うことも考えられている。

単位の認定方法は各研究科や授業担当教官に任せられる。具体的にはメールによる課題の提出や、学習の達成度をみるためのテストを適時行う方法が考えられる。

ISTUによって、いつでも、どこからでも本学の先端的な研究を学ぶことができる。社会人や遠隔地に住む人でも比較的容易に受講が可能だ。

ただし、研究科によっては、単位の認定に一定のスクーリングが必要な場合もある。例えば工学研究科では、実験の授業で実際に通学することが必要となる。スクーリングについては、期間の集中や、通常は授業のない土曜日に授業を行うことが検討されている。

講義画面イメージ

ISTU用のカリキュラムは各研究科が独自に策定し、各講義のシラバスやコンテンツは、担当教官がそれぞれ作成することになる。ただ、ISTU全体の運営・管理は、四月に新設された教育情報学研究部が受け持つ。また、コンテンツの作成に関しては、同じく新設された教育情報学教育部がサポートを行う予定。

（同面に関連記事）

現在ISTUの講義は、およそ五十科目が試行的に開講されている。十月からは工学研究科などを中心に、ISTUの本格的な実施が始まる。計画では二〇〇七年までに、十四研究科の全開講科目の四十パーセントの開講を目指している。

ISTUに関する詳しい情報は http://www.istu.jp/

本学経済学研究科・経済学部

公認会計士養成コースを設置

現役公認会計士が講義

四月から本学大学院経済学研究科、および経済学部はプロフェッショナルコース・会計プログラムをスタートさせた。プロフェッショナルコース・会計プログラムは、公認会計士や税理士としての資格を取得するための能力、高度な知識を身に付けることを目的としている。このコースは、経済学部一年から四年、または修士の課程の間を対象に開講される。この試みは全国で初めてのことである。

プロフェッショナルコース・会計プログラムは三段階のステップに分かれている。まずステップ一では、講義を通じて公認会計士制度や試験制度の概要を理解し、日商簿記検定の三級と二級の合格を目指す。対象は学部一・二年、修士一年となる。

次にステップ二では、大学院に開設されている会計学関連特論四科目（監査論・税務関係論・原価計算論・財務会計論）に対応した実習Ⅰ（四科目）を開設し日商簿記検定一級の合格を目指す。これは学部三年、修士二年を対象とし開講される。

そしてステップ三では学部四年、修士二年を対象に会計学関連特論四科目に対応した実習Ⅱを開設し、公認会計士の論文試験のための準備をする。また実習Ⅰ・Ⅱ（四科目）はそれぞれ通年で二単位と加算される。

講師には本学の教授のほかに、現役の公認会計士を呼ぶことになっており受験のためのテクニックなどを学ぶことができる。

公認会計士の試験は司法試験と並ぶ難関とされており、毎年合格者の多数を慶応大学、早稲田大学、東京大学といった首都圏の有力大学が占めている。その主な理由としては、都心部には公認会計士になるための予備校が多く、合格者のほとんどがダブルスクールをしている点が挙げられる。

それに対し、東北地方にはこのような予備校がほとんど皆無である。そのため本学からの合格者は毎年、数名に留まっていた。

このことを重く見た本学が、東北地方から公認会計士を多く輩出しようと、二年程前からコースの構想を練り始め、半年前から本格的に取り組みだした。「東北地方から公認会計士を輩出することで、今まで東京から呼び寄せるときに必要であった経費などが安くなる」と、経済学部の高田敏文教授は語る。

都心ではダブルスクールをしなければならないところを、プロフェッショナルコース・会計プログラムは予備校に行く必要がなく公認会計士に必要な知識を本学で学べる。このコースの開設により、経済学部はさらに実践的な教育の場となったことになる。

教育情報学専門の大学院新設

インターネットスクールを管理・運営

教育と研究を分離

四月一日、本学に教育情報学を専門とする大学院である「大学教育開放論」「比較IT教育論」の五分野に分かれる。

それぞれの視点から教育における効果的なITの活用方法について研究を進めていくことになる。

また、研究部は四月から一部試行の始まった「東北大学インターネットスクール」（ISTU）の運営・管理を担当する。IT教育についてITの研究成果をISTUの運営にフィードバックしていくことで、より効果的な運営を目指す。

教育部のスタッフは、研究部の教授らが兼任する。修士課程の定員は十二名、二〇〇四年度からは博士課程五名が加わる。

教育部の学生にとってISTUは、IT教育について研究していく実習の場となる。ISTUのコンテンツは、その研究成果をISTUの運営にフィードバックしていくことで、より効果的な運営を目指す。

教育部のスタッフは、研究部の教授らが兼任する。修士課程の定員は十二名、二〇〇四年度からは博士課程五名が加わる。

教育部の学生にとってISTUは、IT教育について研究していく実習の場となる。ISTUのコンテンツは、その研究成果をISTUの運営にフィードバックしていくことで、より効果的な運営を目指す。

教育部は十月に来年度の大学院入院試験を行う予定。また、本年度分について定員に余裕があるため、十月に本年度の分の秋募集も行う。本年度は募集を開始するのが四月一日からと遅かったため、七名の入学に留まった。

研究部と教育部は、昨年度まで教育学研究科があった場所の三階と四階を使用する。教官用の研究室のほか、学生用の教室、ISTUのコンテンツ作成用のスタジオとなるデジタルコンピュータルームなどが設置される予定。将来的にはISTU用の新棟の要求もしていくという。

これまで、本学の大学院は教育機能と研究機能が一体となった「研究科」型の大学院だった。しかし、「研究科」では教官が研究の成果によって評価されるため、研究至上主義に陥り、大学院生に対する教育がおろそかになることがあった。

今回の新大学院の設立にあたり、本学は教育と研究を分離した上で、教官は兼任させる形態をとった。この形態では、教官は研究成果だけでなく、教育成果も求められることになる。これにより、研究至上主義の弊害を取り除き、より質の高い大学院教育を実現していく。

こうした大学院の設置形態は、九州大学や東京大学などでもすでに取り入れられており、今後さらに全国の大学に広がる可能性がある。

2002年度 入学式開催

メンソーレ東北大学へ

四月四日、太白区内にある仙台市体育館で二〇〇二年度本学入学式が行われた。本年度の入学者数は学部で二二六九人、大学院研究科で二三四八人、合計で四六一七人となる。

当日は晴天にも恵まれ、体育館前には会場の開門前から多くの新入生たちが集まっていた。入学式会場と隣接する富沢公園で例年よりも早く桜が咲き乱れるなか、新入生たちは新しく始まる大学生活に胸をときめかせていた。

入学式は午前十時、本学学友会交響楽部の演奏から始まり、続いて阿部博之学長による祝辞が行われた。その中で、阿部博之学長は大学入試の偏差値信仰を断ち切ること、芸術やスポーツに親しむことなど、大学生活に関する新入生への要望を述べた。その後、学部長などの紹介が行われ、最後は応援団によるエールで、式は幕を閉じた。

引き続いて、学務部オリエンテーション、学友会を中心としたサークルの紹介が行われた。学務部オリエンテーションでは図書館や学生相談所の利用などについての説明が行われ、各々のサークル団体は趣向を凝らした紹介で、新入生たちの入学を祝った。

会場の外では、式を終えて出てきた新入生に対し各サークル団体が新入部員募集のビラを配っていた。中には、生演奏などのパフォーマンスで新入生の気を引く団体もあった。

東北大学再編

①文部科学省による改革と揺れる国立大学

シリーズ 国立大学法人化

本年三月、文部科学省の調査検討委員会が国立大学の独立行政法人化に関する最終報告を行った。これによれば、二〇〇四年度から全国の国立大学が一斉に「国立大学法人」として生まれ変わることとなる。

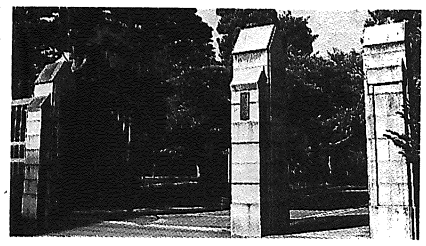
当紙では全六回に渡り、独立行政法人化・大学改革について特集を行う。第一回目となる今回は現在までに進んでいる大学改革の全容について解説する。

改善と改悪の間で

現在、国立大学には世間から厳しい視線が向けられている。戦後、国立大学は「学問の自由」を理由に、教育や研究面に関して社会からの評価を受けることがなかった。また、経営面からも完全に国からの保護を受けてきた。こうした状況のもと、学生の教育や社会の要請にこたえるような研究にはあまり目を向けてこなかった。

事実、一九九九年に科学技術庁が行ったアンケートでは三分の一に及ぶ企業が「大学の研究スピードが遅い」と答えている。また、スイスの国際経営研究所（IMD）でも、日本の「高等教育水準」を主要四十九カ国中最下位に格付けしている。

しかし、その国立大学が文部科学省の進める構造改革によって大きくその姿を変えようとしている。二〇〇四年度から実施される独立行政法人化（以下、独法化）と二〇〇一年六月、遠山敦子文部科学大臣が国立大学長会議に対して発表した「大学の構造改革の方針」（遠山プラン）による改革プランである。



この一連の改革で国立大学は、その研究や教育に関し、国民からの厳しい評価、市場競争に晒されるようになる。そのため、国立大学には今後、学生により良い教育を行うこと、社会のニーズにあった研究を行うことが求められるようになる。

さらに、文部科学省が今まで持っていた国立大学の予算編成権・人事権が大学側に委譲される。大学運営の自主性が広がることで、研究環境の向上につながるだろうというのが改革推進派の主張である。

◆　◆

現在、個々の大学の授業料や付属病院からなどの収入はいったん、すべて国の収入となる。そして、文部科学省が各大学の要望を踏まえて、国の財源からの予算配分を行っている。国から支給された予算はすべて使途が特定されており、大学側が自由に予算を使うことができない。

しかし、独法化により、授業料や付属病院などの収入はすべて個々の大学の財源となる。さらに、国から支給される予算も大学側の裁量に基づき、自由に予算配分ができる。

また、大学の教職員はすべて非公務員となり、兼職や転任など自由に行えるようになるほか、優秀な海外の人材を学部長や学長にすることも可能になる。

さらに、文部科学省ではこの国立大学の独法化を基盤として、「遠山プラン」による大学の構造改革を一層推し進める方針である。

この「遠山プラン」では今後、国立大学の統合・再編を進めること、全十分野別に研究実績評価の高い上位三十校に対して予算を重点的に配分するといういわゆる「トップ三十」構想が示された。従来の独法化による改革案よりもさらに踏み込んで、大学経営に市場の競争原理を取り入れようとする形である。

今後文部科学省によるこれらの構造改革が進めば、厳しい財政状況に陥り、他大学との吸収合併を余儀なくされる国立大学が現れることも考えられる。そのため、現在、独法化後の経営強化をにらみ、全国で国立大学の統合が進んでいる。二〇〇三年度秋までの統合を正式に決定している国立大学は全国で十二組にも及ぶ。東北地方でも弘前大学・岩手大学・秋田大学が、統合に向けた協議を始めている。

しかし、こうした文部科学省による改革案に異論を唱える声も多い。独法化には国の財政難を解消するために発案された経緯があり、「効率性」を重視するあまり、教育や研究に対する視点が欠けているのではという懸念からである。実際、大学関係者の中では、直接的な経済的利益のない文学・哲学分野が切り捨てられる可能性を危惧する声もある。

さらに、将来的に大学の授業料が大幅に値上げされる可能性がある。これによって、低所得層の大学入学が困難となり、大学教育が高所得層に限定されてしまうだろうとされている。

また、独法化後も大学経営に税金使われていくのにも関らず、教職員が公務員としての制約を受けないという矛盾に対する批判が今後起きることが考えられている。

今回の構造改革で逆に文部科学省が国立大学に対して、統制を強めるのではという懸念も一部から持たれている。「トップ三十」の決定や各大学への運営予算の交付を通して文部科学省の国立大学に対する監察が強まるのではという警戒からである。本学でもこのような点を「学問の自由」の侵害だとして、一九九九年に一部学生が川内北キャンパスの講義棟前にバリケードを張り、独法化反対のストライキを起こした。

一昨年のバリストの様子

現在までの大学改革は賛成派の意見が先行して行われてきた。これから、反対派の意見をどれだけ改革に反映されていくかが注目される。

入寮募集停止中の有朋寮

新入生一名の入寮を発表

四月九日、川内北キャンパスの緑地帯前で、有朋寮廃寮反対のための開講日集会が東北大学学生寮自治会連合（寮連）主催で行われた。この集会で、理学部の一年生一名が現在入寮募集停止中の有朋寮へ入寮したことも発表された。また四月十二日に、有朋寮はこの一年生の入寮届提出行動を、片平キャンパスで行った。

この提出行動では、有朋寮、日就寮生三十五名が参加し、有朋寮に入寮した一年生の入寮届の提出を行った。しかし学務部職員は、大学側が有朋寮の募停措置をとっていることや、本来の書式である「入寮願」ではなく「入寮届」の形式で提出されたことを理由に入寮届の受理を拒否した。

これに対し寮生達は、三時間以上にわたり入寮届を受け取るよう抗議し続けた。最終的には職員が入寮届を預かるという形をとり、寮生達は引き上げたと言う。その後学寮専門委員会（学寮専）は十七日に、この一年生に入寮届を受取に来るよう掲示で呼び出し、二十二日に一年生に入寮届が返された。

4.9　開講日　集会の様子

この入寮届提出行動について大学側は、寮生達が学務部職員に対して暴言を吐いたり机を叩く等の恫喝をしたりするなど、かつてのいわゆる「団体交渉」のような集団的示威行為を行ったとしている。そのため、提出行動の参加者に対して教育的措置を取ることも考えられている。

大学側は四月中、有朋寮に入寮し続けている一年生の学生証発行を一時保留していた。また本人に対して寮から出るよう、保証人を通じても説得を行っている。さらにこのまま「不法入寮」状態が続けばそれにも関わらず、このような事態が生じたことは残念だ」としている。

これに対し寮側は、大学側のこのような行為こそが、一年生に対する脅しであり「暴力的行為」であるとして、四月二十三日から二十五日にかけて行われたハンガーストライキなどで強く抗議している。

一年生が有朋寮へ入寮したことについて、学寮専の川本委員長は、「こういうことが起こらないよう募集要項や入学手続き書類で、有朋寮の入寮募集を行っていないことを

処分の可能性も

二年前の電気料問題（※）の解決に際し、大学側は日就寮の入寮募集停止解除の条件として、今後不法行為等があった場合ただちに募集停止をする旨を通達している。日就寮も回答文で、電気料不払いに次第では入寮募集停止を含めた処分も検討するという。

入寮届提出行動によって、有朋寮のみならず日就寮も対応を迫られている。今後の展開次第では、有朋寮廃寮化をめぐる動きがますます激しさを増すことが予想される。

※電気料問題

一九九七年十月に政府の会計検査院は以文・霽風・日就・有朋の四寮について、電気料の国費超過負担（私生活経費自己負担の原則）を指摘し、大学側に是正を求めた。しかし日就寮と有朋寮は断固として是正を認めなかった。そのため大学側は、電気料不払いを続ける二寮の入寮募集停止を決定した。これに対し二寮は一九九九年十月、募停解除を最優先し電気料負担区分の是正に応じた。

宮城県議会

仙台の発展を考える会発足

青葉山県有地裁判の早期解決が目的

三月十九日、県議会議員の相沢光哉氏を発起人として「学都仙台の発展を考える県議の会」（以下、県議の会）が発足した。この県議の会は青葉山県有地の所有権をめぐる裁判の早期解決を目的としている。

青葉山県有地は、現在本学のキャンパス移転の予定地とされている。しかし、所有権をめぐる問題が解決しない限り本学はキャンパス移転を行なうことはできない。

移転に伴う公共工事による効果、片平・雨宮キャンパス跡地の利用などキャンパス移転によって期待される地域発展の効果は大きい。そのため、県議員の中からは、裁判の長期化によって本学がキャンパス移転を断念することを危惧する声が上がっており、これを受けて発足したのが県議の会である。

◆　◆

現在青葉山県有地の所有権は県と、県有地においてゴルフ場を経営する仙台カントリークラブによって争われている。裁判において県側は、青葉山県有地は自分たちの名義で国から譲り受けた、と主張してきた。これに対しゴルフ場側は、名義を借りたのみで土地代、ゴルフ場造成費用はすべて自分たちが負担した、と主張しており、両者は真っ向から対立している。

裁判が始まってから四年がたつが、いまだに第一審は結審していない。仮にゴルフ場側が敗訴した場合、ゴルフ場側は土地を県側に空け渡さなければならないだけでなく、賃貸借契約違反による損害賠償を払うことになる。賠償額は月に約千五百万円とされており、現時点での累積金額は九億円にも上っている。他にも訴訟費用を負担しなくてはならなくなるなど、敗訴した場合のゴルフ場側の負担は大きい。

移転予定地にあるゴルフ場

実際の登記簿では県が所有者となっており、ゴルフ場は賃貸借契約によって県の所有地を借りるという形で土地を利用してきた。そのため多くの法曹関係者からはゴルフ場側の勝訴は難しい、と見られている。

しかしゴルフ場側は一審で敗訴した場合も控訴、上告して争う構えを見せている。これについて相沢氏は「ゴルフ場側の意図は、裁判に勝つことではなく、時間稼ぎなのではないか」と言う。現在本学のキャンパス移転については、計画は進められているものの、実現のめどは立たないままである。ゴルフ場側は裁判を長期化させることで、大学側が移転をあきらめるのを待っているのではないか、と相沢氏は考えている。

◆　◆

県議の会が目指すのは話し合いによる、県側とゴルフ場側の早期和解である。県側に裁判の長期化によるメリットはない。ゴルフ場側も早期に解決することで賠償額がこれ以上増加するのを防ぐことができる。また和解することで県側から立ち退き料が支払われる可能性も出てくるという。

和解のための具体的な方策について相沢氏は「このままでは県側もゴルフ場側も折れない。和解のためには第三者として、民間の有力者の方に仲介をお願いしようと思う。県議の会はその仲介役を含めた話し合いを推進していきたい」と語った。

またキャンパス移転に関して、本学学生や世論の関心が低いことにも触れて「もっと関心を持ってもらえるようアピールしていきたい。東北大学もキャンパス移転に向けてさらなる努力をしてほしい」と述べた。

産学共同開発

プロジェクターのワイヤレス化実現

画期的な画像圧縮技術を応用

本学未来科学技術共同研究センター、大見忠弘教授の研究グループの学生八人が、新しい技術を用いたワイヤレス方式の「ネットワークデータプロジェクター」を開発した。これは、シャープとベンチャー企業のアイ・アンド・エフとの共同開発という形で行われた。

プロジェクターとは、スクリーンに映像を映し出す機械である。パソコンの画像をスクリーンに映し出す場合、従来のプロジェクターでは、パソコンにケーブルで接続させ、「コードブック」に基づいて、画像データを送信する。それに対し、今回開発されたものは、圧縮されたデータをパソコンからプロジェクターにワイヤレスで直接送信する。その後、それを元に再びプロジェクター内の専用プロセッサーで復元するものである。

これにより、わずらわしいケーブル接続が解消されるうえ、多くの人が一台のプロジェクターにアクセスすることや、複数のプロジェクターに同じ画像を同時投影することが可能となる。

ワイヤレスプロジェクターを実現するためには、パソコン上の画像データを高圧縮率で圧縮しながら、画質劣化を極めて少なくできるような画像圧縮技術が必要とされる。

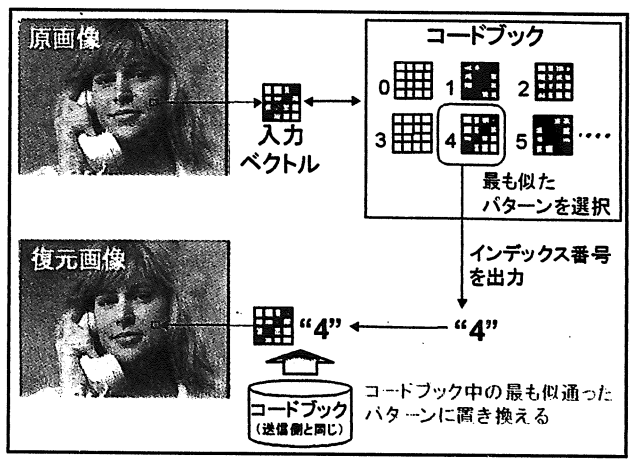
そこで、このプロジェクターでは、「ベクトル量子化技術」と呼ばれる新しい画像圧縮技術を利用することで、高圧縮率、高画質で静止画像を圧縮、復元できるようにしている。

この新技術では、まず送りたい画像を十六画素（マイクロブロック）に分解し、その色調パターンを「コードブック」と呼ばれる基本パーツと対応させる。次に、より原画像に近いコードブックの認識ナンバーを、データとして送信するという方式で、画像データの数字化をはかっている。

さらに、「適応解像度処理」と呼ばれるシステムによって、画像に対して臨機応変に対応することが可能となり、ブロックの粗密度合いによって圧縮率を変えることができる。つまり、画像の細かいところよりも、粗いところをより圧縮するシステムである。これにより、画像データを三百分の一以下に圧縮することができる。「現在一般的な静止画像圧縮技術である『JPEG方式』と比較しても、圧縮率、画質の両方で性能が上回った」と大見教授は話す。

現時点では、データ画像を送信する際に、画面に表示される一定の基本パーツ（コードブック）を用いるため、あらゆる画像への対応を可能にしている。

また、この技術の導入は、ある一定の基本パーツ（コードブック）を用いるため、あらゆる画像への対応を可能にしている。



ベクトル量子化技術、図説

ネットワークデータプロジェクター

送信する際に、画面に表示される共同研究という形をとったのため、今後の課題として、処理速度の短縮があげられる。よって、なるべく少ないコードブックで画像を翻訳し、基本パーツを減らすことで、圧縮率を上げる必要がある。また、圧縮率を上げる際に、画質が落ちないようにすることも必要とされる。「画質の良し悪しは人間の美的感覚に訴える。これからの時代は、その人間の感性、認識を数学的に分析、解析し、表現していく段階だ」と大見教授は語る。

さらに、今は静止画像のみを扱っているが、将来的には動画についても利用可能になる予定だという。

また、今回の開発は企業との共同研究という形をとったが、そのことについて大見教授はこう語った。「新しい学問、技術を人の世の役に立てるのは、大学の役目であり意義である。そのためには、その技術を製品化して、世に出す必要がある。そういう意味で、企業との提携は非常にメリットがある」

このプロジェクターを利用すれば、会議、ディベートなどで、多くの人のデータを一つのスクリーンに随時表示することができ、会議の質を上げることができる。この製品の発売は、今月二十五日に、一台八十万円前後で予定されている。

本学医学部付属病院

遺伝子治療計画を発表

難病治療に大きな期待

本学医学部付属病院の土屋滋教授グループは、X連鎖重症複合免役不全症（X－SCID）の患者に対して、遺伝子治療を実施する計画を発表した。

この病気は、遺伝子欠損による先天的なリンパ球の欠如・異常のために、細菌やウイルスに対する抵抗力がなく、治療が行われなければ生後一年以内に死亡する重篤なものである。

従来、この病気に対する治療として、主に骨髄移植が行われてきた。しかし、患者の家族内に、骨髄提供者を見つけられる確率は高いとは言えない。また、仮に骨髄移植が成功しても、生涯にわたり薬剤の補充療法を受ける必要があるなど、多くの問題点があった。

それに対し一九九九年から、パリのネッカー小児病院で、フィッシャー博士らが、X－SCIDに対する遺伝子治療を開始。良好な成績を収めているとの発表があった。本学医学部は、同博士から遺伝子治療に関する詳細な情報提供を受け、今回の治療計画を立ち上げるに至った。

今回計画されている治療法は、患者の骨髄から造血幹細胞（血液を造る大もとの細胞）を取り出し、試験管内でその遺伝子欠損部位に遺伝子導入を行い、点滴で再び患者の体内に戻す、というものである。この治療を行うことにより、生涯にわたり正常機能をもつ骨髄移植の場合も同様）、優れた治療法として注目されている。

二〇〇二年四月現在、この遺伝子治療を受けた患者は世界に五人で、それぞれ十分な効果が見られている。ただし、BCGなどの生ワクチン摂取者には、ひ臓が膨張するという免疫反応が現れてしまったため（骨髄移植の場合も同様）、たリンパ球が供給される。その結果、患者が生まれつき備えていなかった免疫機能が回復する。

この遺伝子治療は、本人の骨髄のみを利用するため、他人の骨髄の移植による拒絶反応の可能性がない。しかも、一回の治療だけで免疫機能が生涯にわたり身に付くため（治療後の定期検診は必要）、優れた治療法として注目されている。

二〇〇二年四月現在、この遺伝子治療を受けた患者は世界に五人で、それぞれ十分な効果が見られている。ただし、BCGなどの生ワクチン摂取者には、ひ臓が膨張するという免疫反応が現れてしまったため（骨髄移植の場合も同様）、事前の注意が特に必要になるという。

本学では現在、この治療法が国の基準に適正であるかの調査を厚生労働省に申請中であり、許可が下りれば、正式な治療法として認可されることとなる。

この遺伝子治療の持つ将来的な可能性について、本学医学部付属病院の久間木悟助教授は、「現時点では、今回の治療法があらゆる疾患に対して可能といえる段階には達していないが、X－SCID以外の重症複合免疫不全症への応用が可能か検討している。近い将来、遺伝子治療が一般の治療の一つとなるよう今後も研究を重ねていきたい」と語っている。

開始から1年

単位互換制度の現状と課題

単位互換制度が始まってから、はや一年が経過する。大学教育の活性化と充実を図るとともに、意欲ある学生に多様な学習機会を与えることを目的としたこの制度の初年度は、あまり学生に利用されずに終わった。二年目を飛躍の年とし、単位互換制度を発展させるためには、どのような課題があるだろうか。

単位互換制度は、他大学で履修した科目を所属大学の単位として取得できる制度である。仙台圏の十七の大学、短大が参加しており、各大学はそれぞれ特色ある科目を提供している。

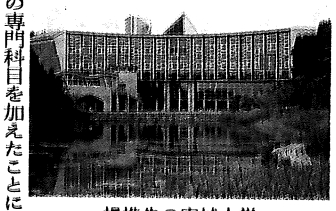
単位互換制度を利用する学生は各学部、および川内北キャンパスの教務窓口にある各大学の要綱を見て、履修したい科目を探す。その後、各学部および大学教育研究センターに申請書類を提出し、本学の入試課を通して各大学に送られる。受け入れ大学では、人数の制限などから選考を行い、各大学に報告。入試課を通して、学生に履修許可が通知される。

今回、本学からは六名の学生が他大学で履修し、本学は十二名の学生を受け入れることになった。ちなみに、昨年度本学でこの制度を利用した学生は四（前期三、後期一）名。また、本学が受け入れた学生は延べ十三（前期八、後期四）名である。他大学で制度を利用した学生も、本学と同様の数だという。

伸び悩む利用者数

単位互換制度を利用する学生は一年目からほとんど増えていない。しかし、本学は利用者を増やすために、積極的に対策を講じてきた。

例えば、本学は今年度、単位互換制度のために開放する科目を大幅に増やし、昨年度の九科目に対し八十七科目とした。これは学部の専門科目も開放すべきという学内の意見を反映し、全学教育科目のほか文学部、工学部、農学部の専門科目を加えたことによる。また、昨年度は申し込み期日を三月までで締め切っていたが、今年度は四月十五日まで延ばした。



提携先の宮城大学

それでも、利用者の数は伸び悩んでいる。その原因として、まず学生が各大学に赴いて授業を受けるうえで、移動に時間がかかること。次に、改善されてきてはいるが、まだ学生に広報が行き届いていないといったことが挙げられる。だが、それらを考慮しても、制度を利用する学生は少ない。根本的な問題として、仙台の学生に、他大学で授業を受けたいと思うほどの学習意欲が備わっていないのだ。

また、単位互換制度を利用してはいても、現実には単位を取得できなかった学生は多い。

昨年度、本学から単位互換制度を利用した学生は四人いるが、一人も単位を取得しで

さらに、学生への広報にも力を入れた。それほど目立った活動を行わなかった昨年度に比べ、今年度は学生便覧に制度についての記述を載せる、各部局にポスターを貼るなどの対策を講じている。

さらに、学生への広報にも力を入れた。それほど目立った活動を行わなかった昨年度に比べ、今年度は学生便覧に制度についての記述を載せる、各部局にポスターを貼るなどの対策を講じている。

単位互換制度を利用する学生は一年目からほとんど増えていない。しかし、本学は利用者を増やすために、積極的に対策を講じてきた。

例えば、本学は今年度、単位互換制度のために開放する科目を大幅に増やし、昨年度の九科目に対し八十七科目とした。これは学部の専門科目も開放すべきという学内の意見を反映し、全学教育科目のほか文学部、工学部、農学部の専門科目を加えたことによる。また、昨年度は申し込み期日を三月までで締め切っていたが、今年度は四月十五日まで延ばした。

本学助教授

窃盗容疑で逮捕

停職六ヶ月の処分

本学電気通信研究所の松浦孝助教授が三月十日、女性の携帯電話などを盗んだとして仙台南署に逮捕された。松浦助教授は同月二十日に釈放され、大学当局から停職六ヶ月の処分を受けている。

同研究所の調査委員会によると、松浦助教授は三月十日午後三時ごろ、JR仙台駅前で知り合った女性会社員（二六）とともに、車で太白区内のホテルへ行った。そして女性が眠っているすきに、女性の携帯電話と松浦助教授が与えた一万円を持ち出し、ホテル代を払わずに立ち去った。その際、車の助手席に置いてあった女性のバッグもそのまま持ち帰り、帰宅途中持ち出した物をすべて捨てた。警察は車のナンバーから松浦助教授の身元を割り出し、自宅に連絡。同日午後十時ごろ、松浦助教授は仙台南署に出頭し、窃盗の容疑で逮捕された。

犯行の動機について、松浦助教授は警察の調べに対し「女性の態度が気に入らなかった」などと話している。松浦助教授は同研究所に辞職願を出しており、停職処分終了後に受理されるかが同研究所で決議に掛けられる。また、被害に遭った女性とは後日示談が成立し、松浦助教授が女性に賠償金を支払った。

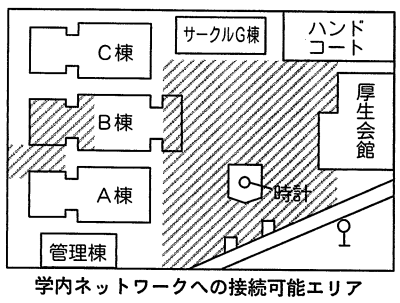
松浦助教授は同研究所で、半導体についての研究をしていた。同研究所の中村慶久所長は「非常に研究熱心で、学生の面倒見の良い研究者だった。松浦助教授がこのような事件を起こすとは思ってもみなかったことで、今回の事件には大変驚き、当惑している。日頃の激務によるストレスもあって、このようなことをしてしまったのかもしれない」と話している。

個人の端末を用い 学内ネットワークへの接続可能に

川内北キャンパス

今月から川内北キャンパス講義棟内外で、個人の端末（ノート型パソコンなど）を用いて学内ネットワークに接続するシステムが導入されることとなった。

このシステムは、学内に設置されたケーブルを差し込む情報コンセント、または無線LANカードを使い、シナジーセンター、及び学内ネットワークへのアクセスができるようになるものだ。これにより、学生は自分のパソコンを用いて、シナジーセンターなどの端末と同じようにインターネットができるようになる。



学内ネットワークへの接続可能エリア

この接続システムを利用する際、利用者は本年度のカリキュラム変更でパソコンのWebブラウザなどを使い、学内情報教育が重視され、川内北キャンパスでの情報基盤整備ネットワークにアクセスする。このとき、認証システムをクリアすることが必要となっていた。

今回ネットワーク端末を増設し、屋外でも利用できる無線LAN接続システムを導入することで、百五十ユーザーが同時にアクセスできるようになった。大学教育センターの斎藤紘一教授は「今回の端末増設によって、川内北キャンパスでもより簡単に情報収集が行えることになった。これを利用して、自主学習の手助けや学内情報の閲覧に役立ててくれれば」と語る。

今後、大学教育センターはシステムの利用状況や利用者の声を聞き、さらなる利用エリアの拡大やメールの取り扱いなどサービスの拡大も考えている。

設置されている。また無線LANカードによる学内ネットワークへの無線接続の可能なエリアは、川内北キャンパスの正門からC棟前、掲示板付近から厚生会館で囲まれる区域内、およびA棟とB棟の西側、川内合同研究棟前までとなっている。

今まで学生が利用できるネットワーク端末は、シナジーセンターや図書館など、所定の場所に限られていた。さらに、自習室や談話室などに設置される情報コンセントは、本年度のカリキュラム変更で「情報基礎」が必修となり、情報教育が重視され、川内北キャンパスでの情報基盤整備が必要となっていた。

今回ネットワーク端末を増設し、屋外でも利用できる無線LAN接続システムを導入することで、百五十ユーザーが同時にアクセスできるようになった。大学教育センターの斎藤紘一教授は「今回の端末増設によって、川内北キャンパスでもより簡単に情報収集が行えることになった。これを利用して、自主学習の手助けや学内情報の閲覧に役立ててくれれば」と語る。

今後、大学教育センターはシステムの利用状況や利用者の声を聞き、さらなる利用エリアの拡大やメールの取り扱いなどサービスの拡大も考えている。

シリーズ七大戦

勝利への追い風 ④学友会ヨット部

気候を知り尽くす

気まぐれな風を読み、落ち着かない波の上で艇を操る。自然を味方に付け、いかにして他の艇より速くゴールを駆け抜けるか。それがヨットである。

ヨットは動力を持っていない。帆で風を受けて進み、進行方向を舵で決める。また、ヨットは前の帆とバランスの調整をするクルーと、舵と後ろの帆を操作するスキッパーの二人で運転する。

ヨット競技はスナイプと470（ヨンナナマル）の二部門がある。最大の違いは、前者の帆は二枚あり、後者はそれに加えて三枚目の帆を使うことができるということである。そのため、470の方がスピードを出せる。

本学の学友会ヨット部は四年生五人、三年生六人、二年生七人の合計十八人で構成されている。普段は毎週土・日曜日に名取市の閑上ヨットハーバーで、スタート練習や並走してスピードを出す練習などをしている。

学友会ヨット部副主将の大見敏仁さん（工学部四年）は、「ヨットは二人で息を合わせて操作しなくてはなりません。また、風を読まないとうまく走ることができないです。だから、非常に奥が深いスポーツですね」と話す。

風を読んで海を進む

七大戦のヨット競技は団体戦で、各大学が二艇ずつ出し合い、合計十四艇で走る。各レースにおいて決められたコースを走り、一位の艇が一点、二位の艇が二点というように順位をそのまま点数として付ける。二つの部門でそれぞれ七レース走り、それらの総合得点が最も少ない大学が優勝となる。

今年の競技は七月十二日から十四日まで本学学友会ヨット部の普段の練習場でもある名取市閑上ヨットハーバーで行われる。本学のヨット部は、大会会場の風の吹き始める時間や方向、波の高さや周期などを練習で知り尽くしている。そのために、気候を読みやすいという点で他の大学よりも大きなアドバンテージを得ている。

ヨット競技は京都大学、九州大学が強い。今年は地元開催で有利とはいえ、それでも必ず勝てるとは言えない。では勝つために必要な他の要素は何であろうか。「個々の能力も確かに重要です。しかし七大戦は団体戦のみなので、他大学の強い選手の風上に位置して風を妨害するという戦略も重要になってきます」

今回の七大戦についての目標はどうなのであろうか。「目標はもちろん優勝です。京都大学や九州大学は強いですが、頑張って勝ちたいと思います」

その目標に向かうに当たり、ポイントとなるのはスナイプ部門の椎名晴子選手（法学部三年）だ。彼女は今回が初めての七大戦。プレッシャーに弱い彼女がどれだけ本来の力を出すことができるかが勝利のカギとなる。

そして最後に大見さんはこう語る。「長い歴史を持つヨット部が最近、衰退しています。今回の七大戦で勝って勢いを付けたいです」

七大戦における本学の昨年、一昨年の本学の成績はそれぞれ六位、五位と振るわなかった。だが地元で行われる今年の大会には、ぜひとも期待したい。

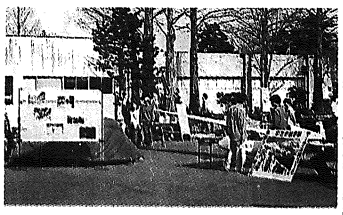
サークル来る？ 文フェス・スポフェス開催

スポーツフェスティバル

入学式前日である四月三日の午後、川内北キャンパスの緑地帯前において、学友会体育部主催のスポーツフェスティバルが開催された。体育部に所属する各部による趣向を凝らした勧誘が行われ、川内北キャンパスは普段と違った活気に包まれた。

当日は午前中に川内記念講堂で生協オリエンテーションが行われていたこともあり、多くの新入生が川内北キャンパスを訪れた。会場内に設置されたブースには、グライダーやテントなど大きな展示物が置かれ、中でもキャンパスを乗用馬が歩く姿は注目を集めていた。

各部はビラの配布や、活動内容の説明を行い、新入生に対してそれぞれの魅力をアピールしていた。中には、実際の練習内容を新入生に体験させる企画や、過去の試合内容の上映を行う部も見られ、新入生の注意を引いていた。また、A・B棟間に置かれた演舞場では、応援団の演舞や各部の説明が行われた。


4，3スポーツフェスティバルの様子

各部の熱気を帯びた勧誘は、午後三時まで続けられた。天気に恵まれたこともあり、今年のスポーツフェスティバルは例年と変わらず盛況であった。

文化フェスティバル

四月二十四日、川内北キャンパスにおいて新入生歓迎全学実行委員会（全学新歓）主催による文化フェスティバル二〇〇二「来たれ若人よ」（以下、文フェス）が行われた。

文フェスは新入生勧誘のためのアピールの場として、毎年四月、主に文化系サークルによって催されている。今年も三十以上のサークルがA・C棟を使って自分たちのサークル活動の紹介を行った。

当日は晴天に恵まれ、屋外の企画の一つとして軽音楽部による演奏が行われた。A・B棟間から聞こえてくるノリのいい演奏に、多くの新入生が足を運んでいた。厚生会館前では生活部によるアルコールパッチテストが行われ、自分がアルコールに強い体質かが手軽に分かるとあって、たくさんの新入生を集めていた。

屋内では、活動の展示、演奏発表、説明会など各サークルがそれぞれ趣向を凝らした勧誘を行った。奇術部のマジックショーは照明や音楽などの本格的な演出で、立ち見が出るほどの盛況であった。邦楽部では実際に琴や三味線を演奏できるとあって、新入生は興味深そうに楽器に触れていた。

またそのほかの企画では放送研究部の公開DJが好評を博していた。テンポのよい音楽とトークがB・C棟間に設置されたスピーカーから屋外に流れ、文フェスに華を添えていた。

午後の川内北キャンパスでの授業が休講ということもあり、どの団体も賑わいを見せた文フェス。ここで気になるサークルを見つけることができたのなら、今からでも行ってみることをお勧めしたい。

生協レギュラーカレー 増量に伴い値上げ

四月三十日より、本学の全食堂において、レギュラーカレーのルーが増量された。それに伴う原材料費アップのため、値段が十円～二十円上げられる。

今回の変更は、『一言カード』を通して以前から多く寄せられていた、「ルーを増やしてほしい」という要望にこたえたものである。生協理事会の諮問機関の一つである『組合員の声委員会』で審議が行われ、増量されることとなった。また、四月二十二日から二十七日の期間、値段は据え置きでルーが増量される『お試しキャンペーン』も実施された。

しかし、変更に当たっては心配もあった。変更の対象となるレギュラーカレーは、年間三十二万食もの売り上げを誇る人気第一位のメニューである。それだけに、その値段を上げることで利用者のカレーが起こり、結果として食堂の売上が減少するのではないか、という心配である。

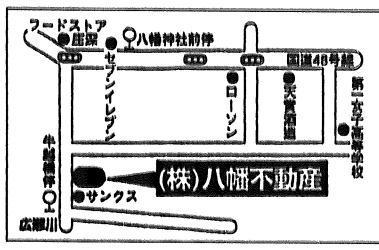
しかし、以前から要望が多かったルーの増量を目的とした値上げであれば、利用者も納得してくれるだろう、ということで最終的に変更された。

なお、今回の変更はレギュラーカレーのみで実施されたものであり、ほかのカレーでは、どうすればごみは減るのだろうか。昔、ごみ処理場の職員が言っていた。「やたらにものを買わないのが、いちばん環境に優しいんだよ」

	ルーの量	値段
大	180cc → 240cc	250円 → 270円
中	144cc → 180cc	210円 → 220円
小	90cc → 120cc	170円 → 180円

編集後記

四月一日から仙台市ではプラスチック製容器包装収集がスタートした。家庭ごみと別々に集められたプラスチックごみはリサイクルに回される▼仙台にやって来たばかりのころは仙台市のごみ分別の適当さに驚き、あきれたが実際、分別が徹底されると実に面倒だ。一つの袋に何でも放り込んでいたものが、今では家庭ごみとプラスチックごみを分離して別々の袋に入れなければならない▼分別しようとしてもどれがプラスチックごみであるか判断が付けられないことも多い。私の地元ではごみは可燃・不燃で分別しているが、母は「ガサガサと音がしたら燃えるごみ」などという意味の分からない噂を真に受け、アルミホイルまで可燃ごみとして捨てていた▼『地球に優しく』『環境のため』頭では分かっているが実践することはなかなか難しい。生ごみ、包装紙、菓子の袋―何も考えずまとめて捨ててしまえればどんなに楽だろうか。頭のどこかで、そう考えている自分が確実に存在する▼小学生のころ、ごみ処理場へ見学に行った。「ごみの埋め立て地はあと八年もしたら満杯になってしまうが、次の埋め立て地のあてはない」幼い私はその事実に驚愕し、しばらく環境を考慮してごみを決して捨てず部屋にため込んでいたので家族に『ごみ娘』と呼ばれていた。あれから十年は経っている。今、埋め立て地はどうなっているのだろうか▼食材でも衣料品でも、買い物をすれば大量のごみが発生する。それを捨てるために、ごみ袋を買う。考えてみればおかしな話だ。



◆学生向きアパート・下宿◆
（株）八幡不動産
仙台市青葉区八幡3丁目18－11
TEL 022（263）3023

学術書・文芸書など古本
誠実売買いたします。
昭文堂書店
東北大北門前　青葉区一番町1－5－8　☎223－0526
http://homepage2.nifty.com/syoubundou/